

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091601205
法人名	株式会社さくら苑
事業所名	グループホームさくら苑貳番館 (ユニット名 2階)
所在地	福岡県久留米市江戸屋敷1丁目11番1号
自己評価作成日	令和7年11月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&jigyosyoCd=4091601205-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階
訪問調査日	英和7年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は久留米市内でも高齢化、特に、高齢者単独世帯が多い地域に平成28年11月に開設し、地域の認知症を患割れた方々の住む『家』として事業を行っている。ご利用者が地域に暮らす一人ひとりの住民として暮らして行ける様に支援しており、日頃の散歩、地域の夏祭りに参加している。ご利用者様の認知症の症状、身体状況に応じ、互いが互いを必要とし、同じ『いえ』に住む疑似家族として生活を支援しており数名のドクター及び訪問看護ステーションなどの連携によりターミナル支援、お看取りの支援も行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた法人の介護理念をフロア毎の朝礼時に全員で唱和し、一人一人が利用者様主体のケアを継続することに努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所にご利用者と散歩に出かけ、地域の方との挨拶を行っている。校区の夏祭り、清掃活動などへの参加等を行い、地域との交流を行っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センターの呼びかけにて地域の認知症利用者への対応講座などに参加し、他の事業所と共に地域課題の掘り出し、地域に対して何ができるのかを模索している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当事業所の運営推進会議には、市職員・包括職員は勿論、他の事業所職員にも入っていただき、各方面からの屈託のない意見を頂戴しサービスの向上に努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当法人の代表者が久留米市介護福祉サービス事業者協議会の理事長をしており、グループホームに限らず久留米市内の事業所の実情、行政としての指導力、協力関係を築けている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修を行い職員の知識向上を行っている。日中は玄関、フロアの施錠はせず、職員の見守りを行っており、外に行きたいと希望されるご利用者には職員が付き添いを行っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内にて年に2回虐待防止と身体拘束適正化の研修を全職員参加にて行っており、虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度のパンフレットを置き誰もが手に取れるようにしている。事業所に以前後見人が選任されているご利用者がおられ、制度利用が必要だと思われる。ご利用者にはご説明を行うなど、支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前の見学、ご家族との会話を重ね納得されたうえで入居して頂いている。入居後も外出や面会時に近況報告を行い信頼関係を築くようにしている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には必ず声をかけご家族との信頼関係を築き、意見や要望を言いやすい関係を作っている。玄関にご意見箱を置き、意見を募っている		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回運営会議を開き、各フロアのミーティングで出た意見を管理者より会社へ伝えている。年に一回全体会議を行い、職員から直接の意見を聞けるようにしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与体系・職能給基準を明確化した上で、管理者が評価し、代表者へ申し出るシステムを構築。自己評価を含め、各職員がやりがい・向上心が持てるよう配慮している		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にあたっては、国籍、性別、年齢、経験などは問わず人柄、高齢者、認知症に対する思い		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社内、社外での人権の研修に積極的に参加するように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	久留米市介護福祉サービス事業者協議会のグループホーム部会が行う研修及び法人内研修には多くの職員が参加し日々トレーニングを行い、職員それぞれが自己の向上に努めている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市介護福祉サービス事業者協議会の総会・その他の研修会、運営推進会議・包括との地域ケア会議などを通じ、地域の他の事業所との交流に努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前に訪問を行い、その時困りごとをご家族、ご利用者にお聞きしている。入居後はスタッフが見たり、聞いたり、感じたことをカンファレンスで周知、ご利用者との関係づくりに努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族の困っていること、不安なこと、ご家族の意向等をしっかりお聞きし、関係づくりに努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者、ご家族、職員と面談し、ご意向や訪問歯科や訪問マッサージ、訪問診療等の必要なサービスを利用出来るように対応している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の意思を聞き、出来ることを職員と一緒に取り組んでいる。家での生活に近づけるよう心がけてよりよい関係が築けるように取り組んでいる		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の課題などについて、ご家族と情報共有し、意向に沿える様にご家族様と共にご利用者を支えていける様にご家族との関係を密にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親戚の方、知人の方等の訪問も多く、近況の様子を伝えご利用者ともご家族や馴染みの人や場所の会話をし、関係性が持続していける様支援している		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の交流を深めて頂く為、季節の行事や日常のレクを考慮している。トラブルがあった場合、職員が間に入り利用者様の席替え等行なっている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用の終了後も、お便りを出したり催し物に出演依頼をお願いしたり、関係を継続して行ける様努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の表情、仕草、行動等から意識を読み取り、ケアプラン見直し時ご家族からの意向や希望をお聞きし、ご利用者の思いや意向を把握できるよう努めている		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面会に行き、ご利用者やご家族から情報収集し、入居時の生活歴を把握し、これまでの暮らしに近い環境作りが出来る様努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、午前午後どの様に過ごされていたのか記録し、バイタル測定や排泄の記録等合わせて、職員間で共有し現状の把握に努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングにて、利用者様一人一人の解決すべきニーズを職員間での意見交換、情報を共有しチームとして支援していける様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化がある場合、ケース記録や個別ノートに記録を残し、フロアミーティングを通じて職員間の情報を共有している		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や主治医と情報交換を行いながら受診、訪問診療を受けている。必要な方には、マッサージを紹介もしている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は、把握し、町内の夏祭りも、毎年参加し、コミュニケーションを取り、外出支援や散歩等を通して、近所の方々との交流が持てるように支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医との関係を、大切にしている。ご利用者、ご家族の希望があれば、かかりつけ医の変更をしている。ご利用者にとって、適切な医療を受けられる様に支援している		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	苑の職員看護師がフロアごとに配置されている。かかりつけ医の看護師、訪問看護とも、常日頃より相談や、状態の変化を共有し、対応、指示を受けている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は安心して治療に専念できるよう、ご家族や入院先の医療関係者と、情報を共有し、退院後も苑にて、安心して生活が送れる様に支援している		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にお看取り迄、行っている事を説明している。重度化や終末期になられた際、かかりつけ医や訪問看護、ご家族と情報共有を密にし、意向に沿えるように出来る限りの支援に取り組んでいる		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の主治医や看護師から予測される急変への対応方法を事前に確認し、職員に周知している。フロアにマニュアルを置き皆で情報を共有しながら実践力が身につくように努めている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練（内一回は消防立ち合い）、年一回の水害訓練を行い、垂直避難訓練や、避難経路の確認に努めている。敷地内に発電機を設置しており災害時の電源を確保している		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人、ひとりの尊厳を傷つけないよう、誇りやプライバシーにも配慮した声かけを行っている。気になることが、ある時には、職員同士が、注意しあえる環境づくりに努めている		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通が出来る方には、ご利用者の思いを傾聴し自己決定できるよう支援している。意思疎通が、困難な方には、表情や反応など感じ取れるよう努めている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者1人ひとりの意思やペース体調を確認しながら、その日の状況に応じて対応している。職員は、体操や歌などの声掛けを行うが、どのような事をしたいか、お聞きしている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	離床時は、髪や衣類など、身だしなみを整えてしている。訪問カットに来ていただき、希望される方は散髪していただいている。ご自分でその日の洋服を決められる方には、ご自分でダンスから、決めていただき、難しい方は職員が選んでいる		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備の時やおやつ提供の際、出来る利用者の方には、お皿を並べてもらったり、テーブルを拭いてもらったりしている。おやつ時には、何が、食べたいか、聞いたりしている。1人ひとり役割を、持ちながら、食事やおやつの時間を楽しんでもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面に配慮し、ソフト食も取り入れその方にあつた1日の食事量、食事形態、水分量、を職員が理解し食事の時間が楽しいものになる様に支援している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自分でできる方には声かけにて口腔ケアを行っている。できない方にはスポンジや歯ブラシを使って介助している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェック表を記入し、ご利用者の排泄パターンを知り、時間をみて声かけし、失敗が減るように支援している		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な量の水分や牛乳、ヨーグルトを提供したり、運動の声かけをしスムーズな排泄が出来るように支援している。それでも便秘になる方には、主治医の指示のもとその方に合った下剤の調整をしている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2～3回入浴支援している。ご利用者の入りたいタイミングで入浴が困難な場合もあるができるだけ対応できるように支援している		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の睡眠リズム、体調や心身の状態の変化に応じ、休息していただき時間や空調、明るさなどに配慮し支援している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	フロアにご利用者の服薬ファイルと服薬カレンダーを壁にかけており服薬の際はダブルチェックを行う。ご利用者お一人お一人の個別ノートをつくり、症状の変化などを把握出来るようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、体操や歌等、レクに参加して頂き、天気の良い日は散歩へ出かけたり、食器洗い、洗濯物干し、たたみ、フロアの掃き掃除等の家事への参加をして頂き、毎日楽しく生き甲斐のある生活が出来る様に支援している		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、ベランダでの日光浴、車椅子や歩行者への散歩の付き添い等、その人その人に、ADLに合わせて、外出支援を行っている。十分にご利用者に、事故がない様に声かけながら行っている		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者やご家族の希望によりお金を使えるよう支援をし、お金トラブルが起きないように事務所で預かっている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者が手紙を書かれたりなどした場合ご家族様に届けてどのように書いていたかの様子を報告し、ご家族にも喜んでもらえるようにしている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間の明るさ温度や湿度にはご利用者の様子を見て心地よく過ごせるように配慮している		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の気持ちに寄り添い部屋に行きたい場合はお連れしている。気の合うご利用者同士の話せる場所作りを工夫している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内にはご利用者が自宅で使われていた物を置き自宅のような工夫をし、居心地のよい居室作りをしている		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者のできることをしっかり活かしADLに合った生活を送れるように工夫しています。		